

がんゲノム遺伝子パネル検査における当院での取り組み

◎森下 翔太¹⁾、松井 香奈¹⁾、村松 有紗¹⁾、黄瀬 友理¹⁾、玉木 温子¹⁾、鈴木 佳苗¹⁾、中村 孝始¹⁾
公益財団法人浜松市医療公社 浜松医療センター¹⁾

【はじめに】2019年6月より「OncoGuid NCC オンコパネル」(以下NCC)、「FoundationOneCDx がんゲノムプロファイル」(以下F1)の2つが、2021年8月より「FoundationOne Liquid CDx がんゲノムプロファイル」が新たに保険適用となった。これらは厚生労働省より指定された施設から検体提出ができ、当院はがんゲノム医療連携病院に指定されている。2019年9月よりがんゲノム遺伝子パネル検査(以下パネル検査)の運用を開始しており、今回当院での運用の実際とこれまでの実績をまとめたので報告する。

【当院での工夫】臓器を摘出した時間、ホルマリンで固定を開始した時間、固定終了の時間をそれぞれ記録して過固定を防いでいる。切り出しの際には病理医にパネル検査に使用する可能性のある病変部位を確認し、カセットの色を分けて区別している。脱灰する場合、DNAの断片化を防ぐためパネル検査用ブロックは中性脱灰溶液に、それ以外のものは酸性脱灰溶液に入れている。コンタミネーション防止のためパネル検査の薄切をする際はマイクロトームの清掃、刃の交換、手袋着用に加えてDNase混入を防ぐためにマス

クを着用した状態で薄切を行うようにしている。

【実績】2019年9月から2022年3月に当院でパネル検査を実施した症例について解析結果を含めたリストを作成した。NCCが13件、F1は27件であり、解析成功率は93%であった。解析失敗は3件あり、その内訳は当院でのパネル検査運用開始以前にブロック作成した検体が2件、運用開始後が1件であった。運用開始後に解析失敗した検体は被膜のある大きなリンパ節で、割を入れずそのままホルマリンに入っていたため中心部が固定不良となってしまったと考えられる。

【まとめ】連携病院である当院は、紹介元その他施設からの検体を提出することもある。解析が失敗しないためにも個々の施設での固定時間の管理や固定不良の回避は極めて意義が高いと考える。

浜松医療センター臨床検査技術科 病理検査室 (053)453-7111 (内線 5424)